

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 081	提案機関名 神奈川県漁業士会
<b>要望問題名</b> 県内沿岸部全域の磯焼け状況把握と今後の対策	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ・相模湾東部海域（三浦半島周辺）ではアイゴやガンガゼ等の食害を主因とした大規模な磯焼けが発生し、現在も藻場の回復に努めている。 ・最近では相模湾西部海域（小田原～真鶴）においてもアイゴによるカジメ藻場の食害が目立つ状況となっている。 ・このことから、現在の県内沿岸部における藻場磯焼け状況の把握を行い、県内漁業者および漁協に対しての情報提供を願いたい。 ・また、磯焼けとなった藻場の回復手段についての継続した研究、および大規模な磯焼けに発展するまでに行うべき対策についての研究を要望する。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	水産技術センター	<b>担当部所</b>	栽培推進部、相模湾試験場、企画資源部（普及指導担当）
<b>対応区分</b>	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) 漁場環境保全調査、磯やけ緊急再生支援事業、気候変動により資源が増大する暖海性魚類の活用			
<b>対応の内容等</b> ○藻場磯焼け状況の把握と情報提供：必要に応じて聞き取りなどにより各海域の磯焼けの状況を把握するとともに、効率良い藻場の状況把握に向け、相模湾西部海域をモデルとしてドローン、水中カメラ等による藻場調査方法の検討を水産工学研究所等と進めております。今後、この研究で得られた成果を活用して他の海域も把握してまいります。これらの取組により把握した藻場磯焼けの状況を、漁業者へ情報提供してまいります。 ○藻場回復の研究と磯焼け対策：磯焼け対策は、本県における最大の原因生物と考えられるアイゴやウニ類の除去を継続して精力的に行うことが最も効果的な手段です。そのため、当センターはアイゴの生態や来遊状況に関する調査及びウニ類の除去と有効利用に関する試験研究や、刺網によるアイゴ捕獲方法の検討を行ってきました。今後も磯焼けの原因となる植食性生物の除去方法や藻場回復の手法について、磯焼け対策の専門家との連携や県内外の成功事例等の情報収集を行いながら、各浜に合った効果的な手法について検討してまいります。また、漁業者・漁協が実施している磯焼け対策について、効果的な取組となるよう助言いたします。			
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			